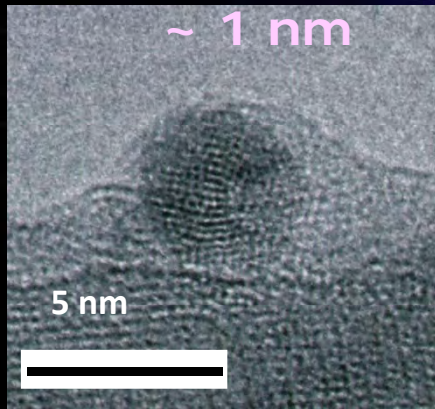
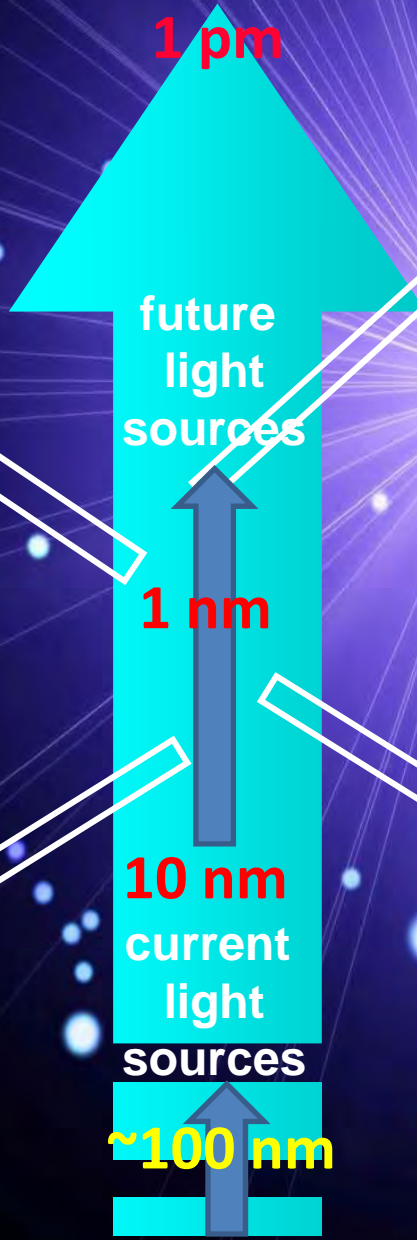
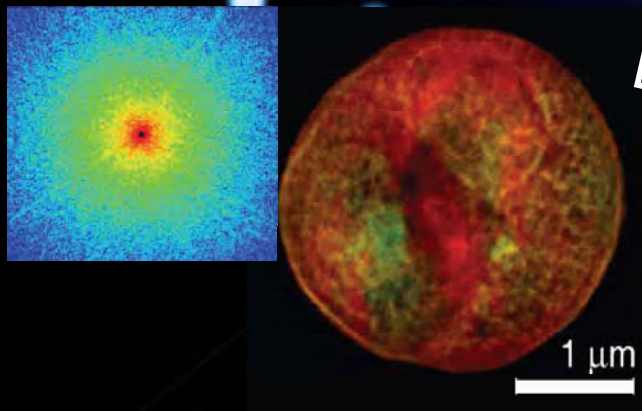


1000 times higher spatial resolution

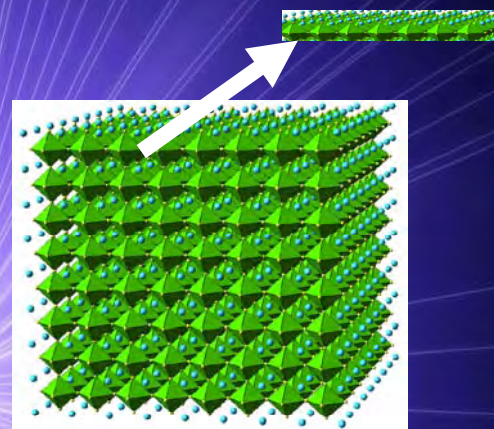
catalytic chemistry



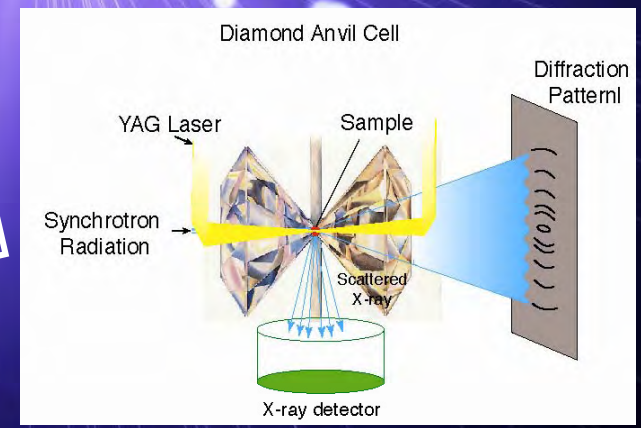
cellular structure and function ~ (1-10) nm



Nano-crystal ~ 1 nm



extreme condition ~ (1-10) nm



Nano beam Technology

1. 大学共同利用機関の現状に関する所見

(3) 機関のCOE性

- 各研究所、施設や大型プロジェクトには全て国際評価委員会(定期開催)が設置されており、評価結果から機関のCEO性は裏付けられている

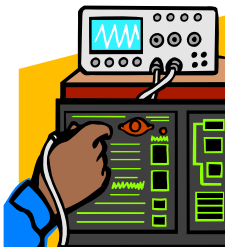
事 項	国際評価委員会名称(毎年開催)	国外委員	国内委員
Bファクトリ	Bファクトリ加速器評価	11	2
	Bファクトリ実験専門評価	6	2
放射光	放射光科学研究施設国際諮問	6	3
大強度陽子加速器	国際諮問	10	3
	加速器技術諮問	10	1
	中性子技術アドバイザー	5	1
	ミューオン源技術諮問	3	10
その他、プロジェクト毎に国際評価・諮問委員会を設置			

2. 今後の学術研究体制における大学共同利用機関の役割に関する所見

大学共同利用機関の位置付け・役割、コミュニティなどのニーズを反映するための方策、共同利用・共同研究機能の向上のための方策

- I. 共同利用のためのインフラ整備を引き続き実施する
- II. 全ての大学の附置研究所的役割を担う
 - 技術支援の強化による大学の研究基盤向上に資する
 - 特に計算機、ネットワーク、エレクトロニクス、低温技術、測定器開発

これからの大学との連携 → 一極集中 + 分散



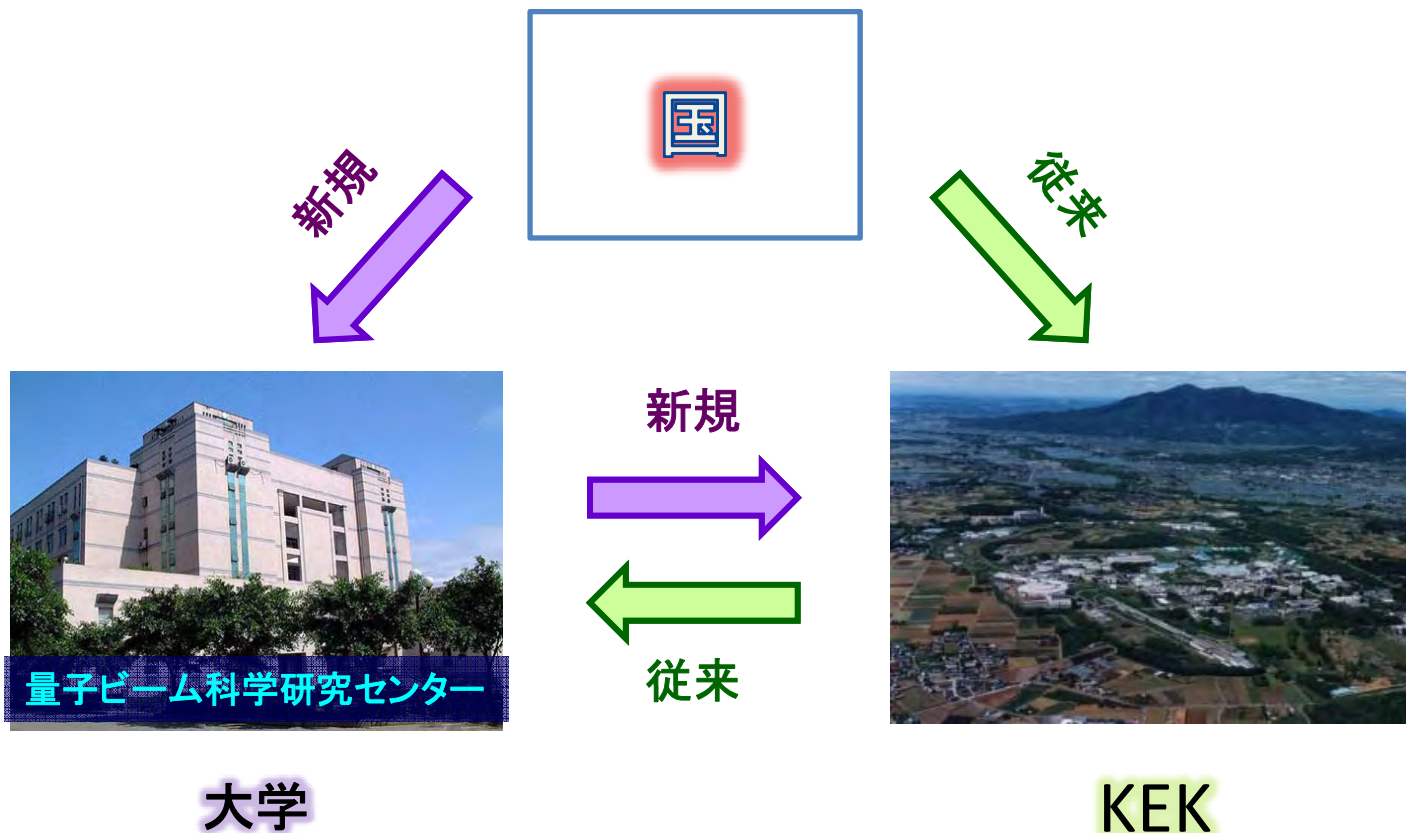
KEKのインフラを最大限に活用：
大学における研究基盤向上の支援



2. 今後の学術研究体制における大学共同利用機関の役割に関する所見

大学共同利用機関の位置付け・役割、コミュニティなどのニーズを反映するための方策、共同利用・共同研究機能の向上のための方策

III. 大学との連携による研究推進の強化 連携プロジェクトの提案(概算要求)

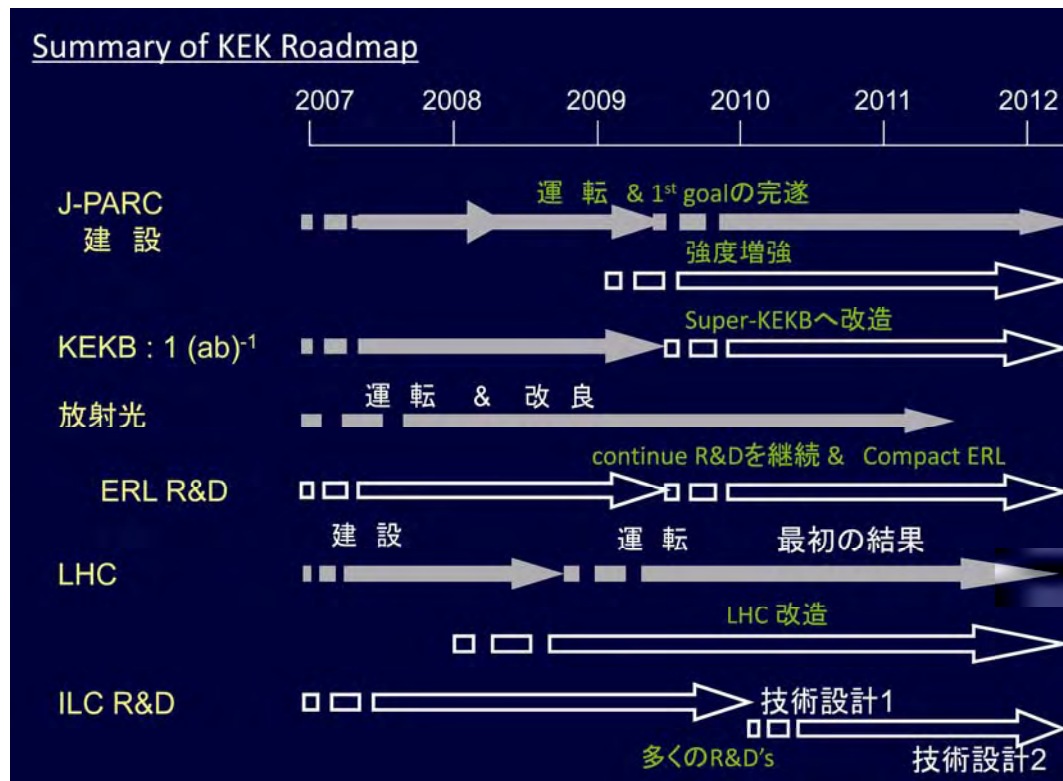


2. 今後の学術研究体制における大学共同利用機関の役割に関する所見

大学共同利用機関の位置付け・役割、コミュニティなどのニーズを反映するための方策、共同利用・共同研究機能の向上のための方策

IV. コミュニティの総意に基づく研究推進体制は既に十二分に行われている

2009年がKEKプロジェクトの転換期: 2007年夏までに各コミュニティからプロジェクトの優先付けの提出
2008年3月の国際評価委員会からの提言を考慮して決定



Roadmap Review Committee in March 2008

